



記
念
誌

法
人
化
五
十
周
年

白
岡
市
社
会
福
祉
協
議
会

50th anniversary 

みんなで支えあい 笑顔と温もりがある
福祉のまち しらおか

地域と共に50年

これまでも これからも

50th
anniversary 

目次

挨拶	
社会福祉法人白岡市社会福祉協議会会長	野口 仁史 …………… 1
祝辞	
白岡市長	藤井 栄一郎 …………… 2
白岡市議会議長	大島 勉 …………… 3
社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会会長	山口 宏樹 …………… 4
白岡市行政区長会会長	佐々木 操 …………… 5
白岡市民生委員・児童委員協議会会長	矢島 静江 …………… 6
白岡市老人クラブ連合会会長	廣田 勝明 …………… 7
白岡市ボランティア連絡会会長	小池 由紀子 …………… 8
白岡市社会福祉協議会50年のあゆみ	…………… 9
白岡市社会福祉協議会の事業活動	…………… 19
皆さまからの一言	…………… 28
白岡市社会福祉協議会歴代会長・理事一覧	…………… 42
あとがき	…………… 44

(※「社協」は、社会福祉協議会の略称です。)



法人化 50 周年を迎えて

社会福祉法人白岡市社会福祉協議会

会長 野口 仁史

白岡市社会福祉協議会は、昭和37年9月に任意の社会福祉団体として福祉事業を開始いたしました。その後、昭和49年8月に法人化準備委員会が発足し、昭和50年9月に法人設立認可を受けてから50周年という記念すべき節目の年を迎えました。

これもひとえに地域住民の皆様をはじめ、白岡市、埼玉県社会福祉協議会、行政区長会、民生委員・児童委員協議会、ボランティア団体、支部社会福祉協議会、関係機関・団体・企業様などの御支援、御協力の賜と心から厚く感謝申し上げます。

さて、この50年を振り返ってみますと、社協草創期の職員は、数名で、事務所は、町役場の一部を間借りしての出発でありました。当時の先輩諸賢は、福祉行政の充実と住民主体の地域づくりの推進を図るため、その体制づくりに東奔西走されました。

その後、本会や社会福祉を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。我が国は、超高齢社会を迎えるとともに、少子化による人口減少社会の進行、また、ライフスタイルや価値観が変化する中で、人間関係の希薄化、社会的孤立、虐待や貧困など福祉課題も複雑化、複合化してきました。さらに、東日本大震災などの大規模災害や新型コロナウイルスの感染拡大など、いまだかつて経験したことのなかった困難事象に直面してきました。それらに起因する生活困窮者の増加や人的交流の途絶など、地域福祉の推進に大きな影響を受けたところでもあります。また、昨今の円安基調による物資高騰や地球温暖化等による気温の上昇などにより、地域住民の皆さんは、暮らし辛さを感じながらの生活を強いられております。

そうした中、本会では、地域福祉を推進する中核的な存在として、一人ひとりの暮らしと生きがいを地域とともに創っていく「地域共生社会」の実現に向け、組織経営のガバナンスの強化や運営の透明性はもとより、各支部社協や各種団体、関係機関との連携を図りながら、各種事業を着実に展開しているところでございます。

どんな施策も事業も、その実施に当たっては、人と人とのつながりと信頼関係が大切であります。法人化50周年を一節として、役職員一同、稽古照今を旨とし、地域住民の福祉ニーズをしっかりと受け止め、時宜にかなった地域福祉のさらなる向上を目指して参りたいと存じます。

皆様方には、今後とも社協に対する変わらぬ御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、御挨拶とさせていただきます。



社会福祉法人 白岡市社会福祉協議会 法人化 50 周年を祝して

白岡市

市長 藤井 栄一郎

社会福祉法人白岡市社会福祉協議会法人化50周年、誠におめでとうございます。貴会におかれましては、地域福祉の推進の担い手として、社会福祉を目的とする事業の実施や、社会福祉に関する活動への住民参加のための援助に取り組み、半世紀の時を刻まれてこられました。この長きにわたる貴会の活動は、地域における人々のつながりを生み、相互に支え合う福祉の充実した地域社会の礎として、市内に浸透しているものと思っております。

さて、近年、地域を取り巻く環境は大きく変化しており、地域における人々のつながりが薄れ、家庭において、社会的孤立やダブルケアなどの潜在的な福祉課題を抱える家庭の増加が憂慮されるところです。このような状況下、当市では、令和4年7月に「福祉の総合相談窓口」を開設し、福祉に係る関係機関の支援を一体的かつ重層的に実施する事業として、悩みや困難を抱える世帯に応じたオーダーメイドの支援を実施してまいりました。この窓口の開設及び運営に当たりましては、貴会の地域福祉における信頼と実績により多大なる御貢献をいただいております。市といたしましては、引き続き、貴会とともに市民一人一人に寄り添い、地域に浸透する窓口にしてまいりたいと存じます。この度の50周年を契機とされ、関係者の皆様や地域との結びつきを一層強められたと存じます。市といたしましても、貴会の基本理念であります「みんなで支えあい、笑顔と温もりがある福祉のまち」の実現を支援してまいります。

結びといたしまして、社会福祉法人白岡市社会福祉協議会の益々の御発展と、関係者の皆様の御健勝と御活躍を御祈念申し上げます。



社会福祉法人 白岡市社会福祉協議会 法人化 50 周年を祝して

白岡市議会

議長 大島 勉

社会福祉法人白岡市社会福祉協議会法人化50周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。また、歴代の会長を始め、長年にわたり活動に携わってこられました関係者の皆様が心を一つに様々な困難を乗り越えてこられましたことに対し、深く敬意を表するとともに、これまでの御尽力に感謝を申し上げます。

白岡市社会福祉協議会は昭和37年に設立され、その後、昭和50年に社会福祉法人となり、この度めでたく法人化50周年の記念すべき時を迎えられました。昭和50年の法人化以来、住民に必要な福祉サービスの提供や市民活動の支援、共同募金運動への協力など、世代を問わず幅広い年齢層の方を対象に数多くの事業を展開されております。

近年、社会構造の変化に伴い、働き方や家庭の在り方が変化し、人々の生き方や暮らし方が多様化したことにより、社会福祉サービスに関するニーズも増大しております。社会福祉に関する要望の増加や課題の深刻化により、白岡市社会福祉協議会の役割はますます重要なものとなっていくと考えております。

市議会としましても、今後の社会情勢を見据え、引き続き市民生活の充実と地域福祉向上のために努力する所存であります。今後も、地域福祉の推進役として、御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、白岡市社会福祉協議会の一層の御発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



法人化 50 周年を祝して

社会福祉法人埼玉県社会福祉協議会

会長 山口 宏樹

白岡市社会福祉協議会が法人化50周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。半世紀という長きにわたり地域福祉の向上に中核的な役割を果たしてこられたことは、歴代の会長をはじめ職員及び関係の皆様のご努力と熱意の賜物であり、深く敬意を表します。

近年、急速な少子高齢化、地域社会の希薄化等を背景に、8050問題やダブルケア、社会的な孤独や孤立等、これまでの制度の枠組みでは対応しきれない複雑かつ複合化した課題が顕在化し、包括的な支援体制の構築が求められています。

こうした中で、貴会は地域の福祉課題に向き合い、地域住民主体の地域づくりに熱心に取り組まれ、市内6支部社協を拠点とした交流会やいきいきサロン、見守り訪問活動等、地域特性に合わせたさまざまな福祉活動を展開されています。

人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで住民一人ひとりの暮らしと生きがい、そして地域をともに創っていくという地域共生社会の実現のためには、地域住民の参画と協働による地域力のさらなる強化が必要です。貴会が長年取り組んでこられた住民主体の活動が、より一層推進されますことを大いに期待しております。埼玉県社会福祉協議会としましても、貴会をはじめ県内の市町村社会福祉協議会とより連携を強め、県域の福祉の増進と地域福祉活動のさらなる充実に努めてまいります。

結びに、貴会の今後の益々の御発展、関係の皆様のご健勝と御活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



これからも地域福祉の拠点として

白岡市行政区長会

会長 佐々木 操

この度、白岡市社会福祉協議会が法人化50周年を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。また、今日までの御発展の礎を築かれました歴代の会長をはじめ、関係者皆様の御尽力、御苦勞に対し、深く敬意を表するものでございます。

白岡市社会福祉協議会は、市民の生活環境、社会保障が変わる中で常に市民の皆さんと手を携えながら地域福祉の推進を図るために尽力されてきました。社会福祉協議会が策定した白岡市第2期地域福祉活動計画の基本理念である「みんなで支えあい笑顔と温もりがある福祉のまち、しらおか」の実現を目指して、高齢者や障害者の在宅生活を支援するため、ホームヘルプサービス（訪問介護）や配食サービスを行っているほか、世代間交流事業、ボランティア活動の推進、話し合いの場づくり、相談支援等、多様な福祉活動の拠点として、大きな役割を果たしています。

これから更に少子高齢化は進み社会保障制度も変わっていくものと思えます。そのような中でも、人と人とのふれあいを大切に、誰もが暮らしやすい福祉のまち白岡市でありますよう住民主体の地域福祉の拠点として、その真価を発揮されますことを心から御期待申し上げます。

結びに、白岡市社会福祉協議会の更なる御発展と、会員及び関係者皆様の益々の御活躍と御健勝を御祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。



白岡市社会福祉協議会と共に歩んだ 歴史を振り返ってみて

白岡市民生委員・児童委員協議会
会長 矢島 静江

この度、白岡市社会福祉協議会が、法人化50周年を迎えられたこと心からお慶び申し上げます。私は、平成10年に民生委員・児童委員に就任し、今期で27年目となります。その間、社会福祉協議会とは、民生委員・児童委員や福祉委員の活動を通して関わりを深め、ともに地域福祉の推進に努めてまいりました。私にとってこうした活動の中で得た経験が多くの学びと成長の機会を与えてくれたと感じています。

また、地域住民の交流の場として「いきいきサロン」を開催した際には、区長さんをはじめとする福祉委員の方や地域住民のボランティアの方などが、自分の時間と手間を割いて御協力いただきましたことに改めて感謝申し上げます。篠津支部社協の福祉委員としては、日頃、関わりが少なかった子どもたちと篠っ子まつりや昔遊びの事業を通して地域の子もたちと交流することができ、そうした子どもたちから声をかけられた時には嬉しくなりました。そして改めて福祉委員として活動をしてよかったと思える瞬間でした。

福祉委員の中には、民生委員・児童委員を辞した後も、社協の福祉委員は、辞めずに活動を続けてくださっている方もたくさんいらっしゃいます。その理由は、こうした経験や地域の仲間と接する楽しさを知り、自分自身も成長できる活動だからだと思います。今後も社会福祉協議会とは、互いに協力しあいながら地域福祉の推進に取り組んでいきたいと考えております。

結びに、貴会の益々の御発展を御祈念申し上げまして、お祝いの御挨拶といたします。



支え合いの50年

白岡市老人クラブ連合会
会長 廣田 勝明

白岡市社会福祉協議会が法人化50周年を迎えられたこと誠におめでとうございます。社会福祉協議会は、地域福祉の中核機関として長年に渡り白岡市の福祉向上に御尽力いただいておりますことを心から感謝申し上げます。また、白岡市老人クラブ連合会は、昭和39年に設立して今年で60周年を迎えることとなり、その間、社会福祉協議会の御支援御協力をいただいたことに改めて感謝申し上げます。

さて、私が老人クラブの会員に加入したのは、17年前、私が行政区長を退任した時でした。当時、地元の老人クラブ「上野田ことぶき会」の会員が少なくなっているとの話を聞き、これから超高齢者化社会に進んでいくのに、老人クラブが衰退してしまうのではないかと危機感を覚え、地域の同世代の住民に私も加入するから一緒に加入しようと声をかけたことがきっかけでした。加入してからは、地域の身近な仲間と支えあい、高齢期を生きがいを持って、安心して暮らすことのできるよう行政区と連携を図り、健康体操や防災訓練を実施しました。こうした活動によって参加者が老人クラブの活動に興味を持ってくださり会員の加入に繋がりました。老人クラブの活動を単独で活動を維持しようとしても難しい部分があります。地域には行政区をはじめ様々な団体があるので、そのような団体と課題を共有して協働で取り組むことができれば、理解者が増え協力し合える関係が築かれていく。そして地域が活性化していくと感じました。

これからも社会福祉協議会には、地域福祉の推進役として大いに期待しておりますので、より一層の御発展を御祈念申し上げてお祝いの言葉とさせていただきます。



白岡市社会福祉協議会 法人化 50 周年を祝して

白岡市ボランティア連絡会
会長 小池 由紀子

白岡市社会福祉協議会法人化50周年を迎えられたこと、心よりお慶び申し上げます。中学時代に点字クラブで活動したこと、まとまった時間ができたこと、社会福祉協議会の点字ボランティア養成講座を受講したことなど、様々な御縁が重なったことから、ボランティアグループ「てんとう虫」に所属し、楽しみながら点訳の活動を続けてきました。

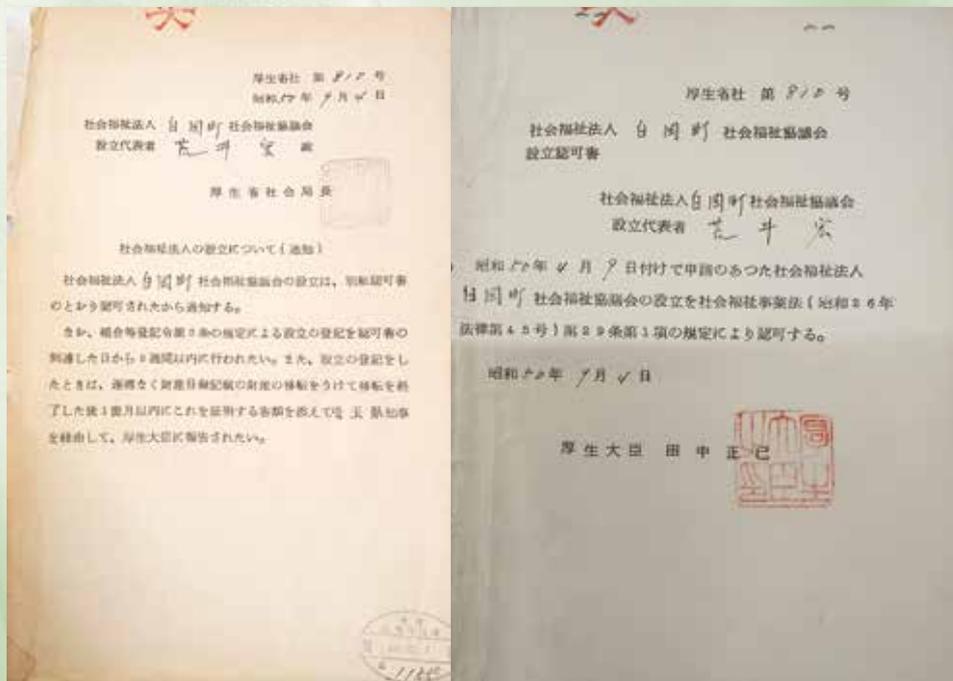
私が会長に就任したタイミングは、今まで活躍されてきた役員方が一斉に退任する、節目のような一年でした。また、新型コロナウイルスの影響で、今まで交流を深める場となっていた芋煮会がなくなるなど、活動に支障をきたすような状況が続きました。ボランティアは自主自立、無償性、奉仕活動の考え方が原則としてあります。積極的に活動してほしいという思いもありますが、できることを出来る範囲で、皆様の支えがあってこそそのボランティア活動だということを忘れることなく、連携して活動に取り組みたいと考えております。一度縮小してしまった地域活動を活性化するには、既存のやり方に固執せず、新しい意見を取り入れながら、時代に合ったやり方を模索し続ける必要があると考えております。

世代を超え、人と人、地域と地域を結ぶため、白岡市社会福祉協議会との連携をより密にして地域活動の充実に努めてまいります。

結びとなりますが、貴会のさらなる御発展と御活躍を心より祈念申し上げます。

白岡市社会福祉協議会 50年のあゆみ

50 years history



白岡市社会福祉協議会は、昭和37年に任意団体として福祉事業を開始しました。

昭和49年には、法人化に向けて準備委員会を設置し、昭和50年に社会福祉法人として認可されました。

ここで法人化50年の歴史を振り返ります。

白岡市社会福祉協議会50年のあゆみ

	白岡市社会福祉協議会のあゆみ	社会情勢（全国・白岡市）
1962年 (昭和37年)	<ul style="list-style-type: none"> 白岡町社会福祉協議会事業開始（任意団体） 	<ul style="list-style-type: none"> 全国老人クラブ連合会結成
1965年 (昭和40年)	<ul style="list-style-type: none"> 白岡町社会福祉協議会規約を制定 	
1967年 (昭和42年)		<ul style="list-style-type: none"> 行政管理庁「共同募金に関する勧告」を厚生大臣に行う。 蓮田町白岡町衛生組合、ゴミ処理操業開始 県道大宮・栗橋線開通
1969年 (昭和44年)	<ul style="list-style-type: none"> 心配ごと相談所を設置  <p>心配ごと相談所の様子（2002年）</p>	
1970年 (昭和45年)	<ul style="list-style-type: none"> 白岡町結婚相談所を設置 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化社会の到来（高齢人口7.1%）
1972年 (昭和47年)		<ul style="list-style-type: none"> 東北縦貫自動車道（岩槻一宇都宮間）開通
1974年 (昭和49年)	<ul style="list-style-type: none"> 法人化趣旨説明会、法人化準備委員会を開催 定款制定、設立当初の役員 理事15名、監事2名、評議員25名を選任 	<ul style="list-style-type: none"> 常備消防、救急業務開始
1975年 (昭和50年)	<ul style="list-style-type: none"> 支部の設置及び運営に関する規定の審議 荒井 宏氏 会長就任 支部社協設置準備委員会を結成（南、篠津、菫莪、大山） 社会福祉法人白岡町社会福祉協議会 設立認可 設立登記完了 	<ul style="list-style-type: none"> 南小学校が開校  <p>社会福祉法人白岡町社会福祉協議会設立認可書</p>
1976年 (昭和51年)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回母子家庭親子レクリエーション実施 	<ul style="list-style-type: none"> 白岡駅橋上本屋の使用開始 消防庁舎完成 消防新庁舎で業務開始
1977年 (昭和52年)		<ul style="list-style-type: none"> 県立白岡高等学校開校

	白岡市社会福祉協議会のあゆみ	社会情勢（全国・白岡市）
1978年 (昭和53年)		<ul style="list-style-type: none"> 西小学校開校
1979年 (昭和54年)	<ul style="list-style-type: none"> 篠津支部高岩分会が地域福祉推進モデル地区に県より指定 	<ul style="list-style-type: none"> 白岡駅東口開設 中央公民館・勤労青少年ホーム開設
1980年 (昭和55年)		<ul style="list-style-type: none"> 保健センター開設
1981年 (昭和56年)	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアスクール開講 	
1982年 (昭和57年)	<ul style="list-style-type: none"> 「社協とは」町内へ全戸配布 ねたきり老人及び独居老人に、会食及び配食事業を4支部により実施 	<ul style="list-style-type: none"> 南中学校開校 老人福祉センター開設
1983年 (昭和58年)	<ul style="list-style-type: none"> 勤労青少年ホームへ社協の事務所を移転 	<div data-bbox="991 801 1414 1093" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1034 1099 1362 1126">配食事業の様子（写真は1987年頃）</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者事業団設立
1984年 (昭和59年)	<ul style="list-style-type: none"> ねたきり老人及び重度心身障害者を対象とした布団乾燥機貸与事業を開始 オムツ持ち寄り運動の開始（実績数559枚） 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティセンター・児童館開設 平均寿命、男女とも世界一となる。
1985年 (昭和60年)	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動及び登録を開始 使用済み切手収集運動を開始（実績枚数2万枚） 福祉の心豊かな県民運動白岡町推進協議会発足 昭和60年・61年度の2か年事業として福祉課から次の業務を受託 <ul style="list-style-type: none"> ①東口駅前広場に四面啓発塔設置また駅構内に横断幕、ポケットティッシュの作製配布 ②ふれあい号試行 ③在宅老人介護講習会開催 ④独居老人へ友愛通信実施 普通会費一口300円→500円に増額 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉ボランティアのまちづくり事業（ボラントピア事業）開始 男女雇用機会均等法公布 西保育所開設

	白岡市社会福祉協議会のあゆみ	社会情勢（全国・白岡市）
1986年 (昭和61年)	<ul style="list-style-type: none"> 全町の小・中学校（8校）が白岡町社協の福祉協力校に指定 南小学校が県社協福祉協力校に指定 敬老会への協力、長寿手ぬぐいの配布 合同金婚式を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 長寿社会対策大綱が閣議決定 改正老人保健法公布
1987年 (昭和62年)	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアセンター運営委員会規程施行 ボランティアセンターを開設し運営委員6名を任命 コーディネーターを設置 大山小学校が埼玉福祉協力校に指定 「ミニ社協だより」発行開始、年4回全戸配布を実施 <div data-bbox="517 813 927 1093" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="639 1099 804 1124">「ミニ社協だより」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士及び介護福祉士法公布 新白岡駅開業 精神保健法公布
1988年 (昭和63年)	<ul style="list-style-type: none"> 白岡町立ありの実館管理運営を受託 独居老人日帰り旅行を開始、25名が参加 独居老人会食会を開始、月1回開催 町内5小学校で高齢者運動会招待事業を開始 福祉モデル地区（高岩）事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 心身障害者授産施設「ありの実館」開設 <div data-bbox="999 1218 1422 1496" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1059 1503 1358 1527">ありの実館の作業風景（2002年）</p>
1989年 (昭和64年/ 平成元年)	<ul style="list-style-type: none"> 交通遺児に対して文具券・図書券を配布 小学校新入児童へ福祉下敷きの配布を開始 西小学校が県社協福祉協力校に指定 篠津小学校が埼玉福祉協力校に指定 「社協だより」発行開始、年2回全戸配布を実施 高校生ワークキャンプ事業を開始、春日部東光園等四会場にて39名が参加 第1回白岡町老人クラブ連合会大運動会を実施 結婚相談所事業「ハッピータイムパーティ」を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 長寿社会開発センター発足 合計特殊出生率最低（1.57）を記録 ゴールドプラン策定 勤労者体育センター開設 <div data-bbox="999 1554 1422 1816" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1086 1823 1331 1848">独居老人会食会（1997年）</p>

	白岡市社会福祉協議会のあゆみ	社会情勢（全国・白岡市）
1990年 (平成2年)	<ul style="list-style-type: none"> 白岡町子供バラエティショー事業を開始。NHK歌のおねえさんとシャボン玉ショーを実施し275名が参加 独居老人配食事業を開始、月1回実施 社会福祉協議会会費に賛助会費を導入 	<ul style="list-style-type: none"> 白岡中学校開校 福祉関係8法改正 
1991年 (平成3年)	<ul style="list-style-type: none"> 白岡中学校が埼葛社協福祉協力校に指定 第1回福祉ふれあい広場を開催 社協独自で重度障害者移動支援事業を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回ふれあい広場 公共下水道供用開始
1992年 (平成4年)	<ul style="list-style-type: none"> 重度障害者移動支援事業を町から受託 菁莪中学校が県社協福祉協力校に指定 彦兵衛第2行政区が地域福祉活動モデル地区に指定 赤い羽根街頭募金の開始 母子、父子家庭61世帯へ食事券プレゼント事業を開始 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者事業団が、法人格を取得し、「社団法人白岡町シルバー人材センター」に名称変更 役場新庁舎で業務開始
1993年 (平成5年)	<ul style="list-style-type: none"> 障害者と成年ボランティア交流会の開始、45名が参加 小学生福祉体験教室実施 支部社協の活動推進のため、小学校区単位の支部割を設定 篠津支部を篠津小学校区と西小学校区へ分割、従来の日勝第1、第2支部をそれぞれ菁莪支部、南支部に名称変更を行い、5支部体制へ移行 	<ul style="list-style-type: none"> 心身障害者対策基本法を障害者基本法に改正 週休2日制実施 
1994年 (平成6年)	<ul style="list-style-type: none"> 独居老人配食事業が月2回実施に拡大 法人化20周年を記念して第1回白岡町社会福祉大会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 新ゴールドプラン策定 高齢社会の到来（高齢人口14%超）



第1回白岡町社会福祉大会

支部社協の活動の様子（写真は西支部）

	白岡市社会福祉協議会のあゆみ	社会情勢（全国・白岡市）
1995年 (平成7年)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉機器貸与事業開始 白岡町結婚相談所事業廃止 白岡町社会福祉協議会会費改定 普通会費 500円 → 一般会費600円 特別会員 1,000円 → 3,000円 賛助会員 3,000円 → 5,000円 ※現在まで同額 白岡町地域福祉活動計画策定 白岡東小学校開設に伴い白岡東支部社協の設置 6支部体制に移行 	<ul style="list-style-type: none"> 阪神・淡路大震災発生 精神保健法を精神保健及び精神障害者福祉に関する法律に改正 障害者プラン策定 高齢社会対策基本法施行 白岡東小学校開校
1996年 (平成8年)	 <p style="text-align: center;">東ありの実館の外観</p>	<ul style="list-style-type: none"> 白岡町デイサービス事業開始
1997年 (平成9年)	<ul style="list-style-type: none"> 心身障害者地域デイケア施設「東ありの実館」の受託経営 濱田 福司氏 会長就任 	<ul style="list-style-type: none"> 心身障害者地域デイケア施設「東ありの実館」開設 総合運動公園開設
1998年 (平成10年)	<ul style="list-style-type: none"> 第1回ありのまま祭開催 障害者移動支援事業（町が委託を廃止したことにより、社協独自で事業を実施） 車いす使用者移動支援事業実施 リフト車の貸出開始 貸出リフトカーの愛称が『ほほえみ号』に決定 福祉協力校の篠津中学校がさわやか福祉活動を開始 しらおかふれあいサービス開始 ボランティア養成講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 「白岡町エンゼルプラン」策定 高岩保育所開設  <p style="text-align: center;">移動支援事業</p>  <p style="text-align: center;">在宅福祉サービス事業</p>
1999年 (平成11年)	<ul style="list-style-type: none"> 福祉協力校の南中学校がさわやか福祉活動を開始 指定居宅介護支援事業の実施 第2回白岡町社会福祉大会開催 	<ul style="list-style-type: none"> 国庫補助事業「地域福祉権利擁護事業（現日常生活自立支援事業）」開始 B & G財団白岡海洋センター開設 ゴールドプラン21策定

	白岡市社会福祉協議会のあゆみ	社会情勢（全国・白岡市）
2000年 (平成12年)	<ul style="list-style-type: none"> ・白岡町より在宅介護支援施設の運営管理を受託 ・埼玉県知事から居宅介護支援事業者として指定 ・指定通所介護事業及び指定訪問介護事業の実施 ・ありの実館フェスティバル・ありのまま祭合同のお祭り実施（ありのままフェスティバル） 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度施行 ・改正成年後見制度施行 ・在宅介護支援施設開設（高岩）
2001年 (平成13年)	<ul style="list-style-type: none"> ・成人を祝う会 ありの実館・東ありの実館合同開催 ・第1回ふれあい親睦旅行（江戸東京博物館） ・あんしんサポートネット受付開始 ・ふれあい・いきいき交流会活動費用の一部助成開始 ・生活福祉資金（離職者支援資金）貸付開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央省庁再編により厚生労働省発足 
2002年 (平成14年)	<ul style="list-style-type: none"> ・山崎 保氏 会長就任 	<p>成人を祝う会（写真は2003年の様子）</p>
2003年 (平成15年)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者（児）指定居宅介護事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会設立 ・しらおか味彩センター開設
2004年 (平成16年)	<ul style="list-style-type: none"> ・白岡町社会福祉協議会事務局を保健福祉総合センター（はびすしらおか）に移転 ・白岡町在宅介護支援施設を「高岩在宅介護支援施設」に改め、保健福祉総合センター内に「白岡町千駄野在宅介護支援施設」を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉総合センター開設 ・新潟県中越地震発生
2005年 (平成17年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回白岡町社会福祉大会開催 ・高齢者交流事業の開始 ・障害児（者）福祉事業の開始 ・介護予防通所介護事業を実施 ・介護予防訪問介護事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護法施行 ・身体障害者雇用促進法改正 ・介護保険法の一部改正
2006年 (平成18年)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス事業を実施 ・訪問介護事業所移動支援事業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者自立支援法施行

	白岡市社会福祉協議会のあゆみ	社会情勢（全国・白岡市）
2007年 (平成19年)	<ul style="list-style-type: none"> ・心配ごと相談所を廃止 ・高額療養費つなぎ資金貸付事業を廃止 ・高岩在宅介護支援施設「高岩在宅介護支援センター」受託運営業務を休止 	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県中越沖地震発生 ・超高齢化社会の到来(高齢人口21%超)
2008年 (平成20年)		
2009年 (平成21年)	<ul style="list-style-type: none"> ・小島 卓氏 会長就任 	<ul style="list-style-type: none"> ・後期高齢者医療制度（長寿医療制度）開始
2010年 (平成22年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回白岡町社会福祉大会開催 ・幼児2人同乗用自転車購入費補助事業開始 	
2011年 (平成23年)	<ul style="list-style-type: none"> ・震災による避難民の受け入れのため、さいたまスーパーアリーナボランティアステーションに職員を派遣 ・秋葉 清一郎氏 会長就任 ・指定通所介護事業及び介護予防通所介護事業を廃止 ・訪問介護事業所ヘルパーステーションがはびすしらおかに移転 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏央道白岡菖蒲IC～久喜白岡JCT間開通 ・東日本大震災発生 
2012年 (平成24年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ありの実館、東ありの実館が就労継続支援B型施設に移行 	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターが社団法人から公益社団法人へ移行 ・市制施行により「白岡市」誕生
2013年 (平成25年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回親子災害デイキャンプの実施 ・孤立防止フォーラムを埼玉県社会福祉協議会と共催で実施 ・九都県市合同防災訓練へ参加し、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を実施 ・越谷市で発生した竜巻被害に対し、災害ボランティアセンターの運営スタッフとして職員を派遣 ・社協マスコットキャラクター決定（どんぐりくん）  	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉東部消防組合発足 ・九都県市合同防災訓練埼玉会場として白岡市総合防災訓練を開催

	白岡市社会福祉協議会のあゆみ	社会情勢（全国・白岡市）
2014年 (平成26年)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域デビュー講座の開催 ・(株)トヨタレンタリース埼玉と災害時の車両提供に関する協定の締結 	<ul style="list-style-type: none"> ・のりあい交通の運行を開始
2015年 (平成27年)	<ul style="list-style-type: none"> ・第5回白岡市社会福祉大会開催 ・彩の国あんしんセーフティネット事業の実施 ・生活困窮者自立相談支援事業（市からの委託事業）を受託し、相談窓口「しらおか生活相談センター」を設置 ・白岡市地域福祉活動計画策定委員会を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・圏央道県内全線開通 ・生活困窮者自立支援法施行
2016年 (平成28年)	<ul style="list-style-type: none"> ・しらおか地域生活支えあい事業開始 ・白岡市地域福祉活動計画策定 ・熊本地震義援金街頭募金の実施 ・常務理事の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度の利用の促進に関する法律等施行 ・熊本地震発生 ・白岡市母子愛育会を恩賜財団母子愛育会総裁の秋篠宮妃紀子殿下が御視察
2017年 (平成29年)	<ul style="list-style-type: none"> ・市制5周年記念イベント「福祉ふれあいひろば」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・市制施行5周年記念式典開催
2018年 (平成30年)	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児2人同乗用自転車購入費補助事業を廃止 ・「傾聴ボランティア養成講座」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・埼葛北地区基幹相談支援センター（トロコ）を開設 ・生涯学習センターこもれびの森開館 ・改正社会福祉法施行
2019年 (平成31年/ 令和元年)	<ul style="list-style-type: none"> ・子供と高齢者が安全に安心して生活できる社会づくりに向けた「見守りネットワーク」についての覚書を久喜警察署と締結 <div data-bbox="603 1512 911 1715" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="608 1722 906 1771">「見守りネットワーク」に関する覚書調印式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「お弁当調理ボランティア、配達ボランティア募集講座」の実施 ・埼玉県社会福祉協議会より台風19号に伴う災害救援職員派遣依頼を受け上尾市災害ボランティアセンターへ職員を派遣 ・子供用車いすの貸出を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年東日本台風災害発生 ・子育て世代包括支援センター（保健センター内）を開設 <div data-bbox="1050 1704 1326 2047" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1123 2054 1251 2080">子供用車いす</p>

白岡市社会福祉協議会のあゆみ

社会情勢（全国・白岡市）

2020年
(令和2年)

- ・第6回白岡市社会福祉大会開催
- ・緊急小口資金等の特例貸付申請受付
- ・福祉有償運送事業（移送サービス）を廃止
※福祉車両の貸出サービスは継続
- ・ありの実館 手作り和紙生産開始
- ・白岡市第2期地域福祉活動計画を策定のため策定委員会を設置
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減って貸付制度を利用した世帯にクオカードの給付を実施

- ・新型コロナウイルスの流行



リニューアル後の公式ホームページ

2021年
(令和3年)

- ・白岡市第2期地域福祉活動計画を策定
- ・ホームページをリニューアル、Facebook開設
- ・野口 仁史氏 会長就任

- ・市制施行10周年

2022年
(令和4年)

- ・白岡市（福祉課）との業務協定を締結
- ・事務局内に、「福祉の総合相談窓口」を設置

- ・福祉課内に「福祉の総合相談窓口」を設置



成年後見サポートセンター



福祉の総合相談窓口

- ・事務局内に、「白岡市成年後見サポートセンター」を設置
- ・白岡市と協働でフードドライブを実施し、寄付のあったお米を生活困窮世帯へ配付



福祉の総合相談窓口（福祉課）



フードドライブの様子

2023年
(令和5年)

- ・埼玉県社会福祉協議会より台風2号に伴う災害救援職員派遣依頼を受け越谷市災害ボランティアセンターへ職員を派遣
- ・ありの実館、東ありの実館 福祉の店への出店開始

- ・令和5年6月2日からの大雨及び台風第2号による被害発生

- ・市役所本庁舎1階に福祉の店開店



福祉の店 オープニングセレモニーの様子

2024年
(令和6年)

- ・Instagram開設

- ・能登半島地震発生

2025年
(令和7年)

- ・白岡市社会福祉協議会法人化50周年記念第7回白岡市社会福祉大会開催

白岡市社会福祉協議会の事業活動

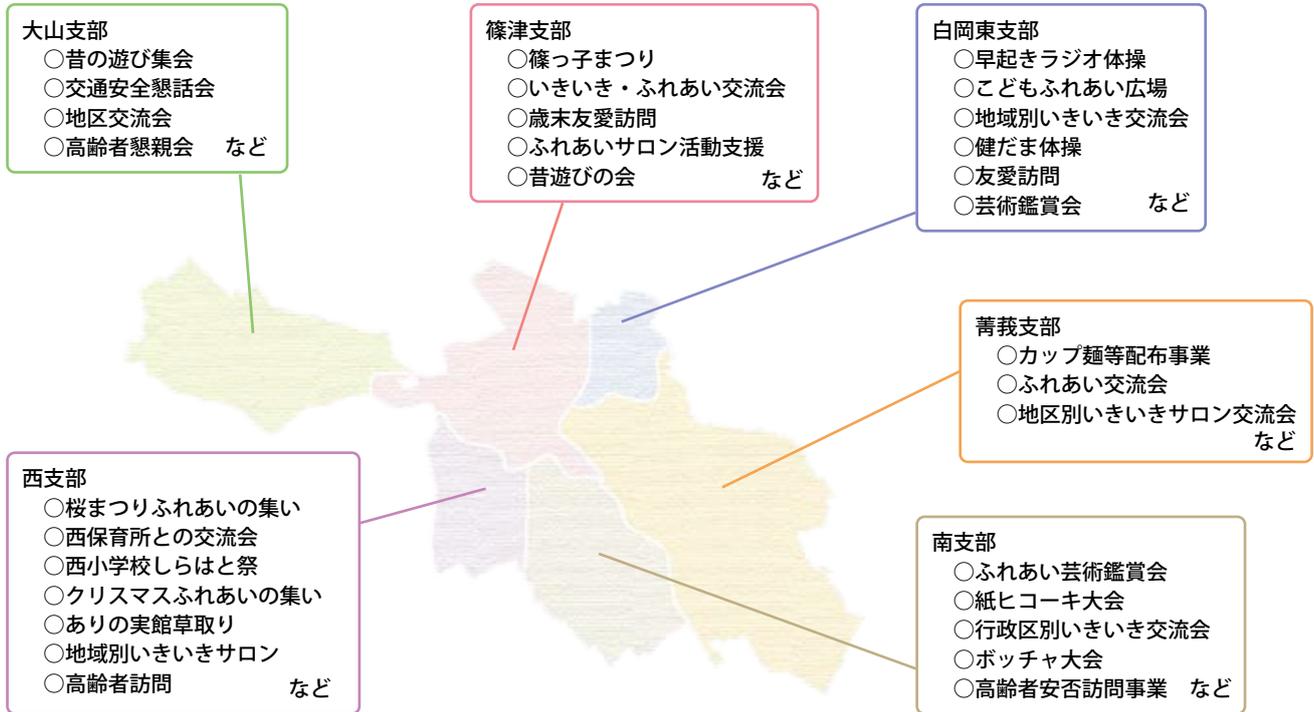
Business activities



白岡市社会福祉協議会では、設立当初から、会員の善意によって集められた会費を事業財源として、行政が手の届かない制度の狭間の福祉課題の解決に向けて、独自の事業を展開してきました。

時代が移り、社会構造やライフスタイルの変化によって福祉課題が複雑化、複合化している昨今、地域住民が互いに尊重し、協力し合いながら自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現を目指し、新たな福祉課題の解決に向けて、これからも地域福祉の推進に邁進していきます。

白岡市社会福祉協議会の主な取り組み



地域福祉活動推進事業

支部社協育成事業

地域福祉活動を推進するための地域拠点として、小学校区を単位に6つの支部（菁莪支部・篠津支部・大山支部・南支部・西支部・白岡東支部）を設置しています。各支部では福祉委員（行政区長、民生委員・児童委員、老人クラブ、ボランティア、学校長、PTA会長など）がそれぞれの地域特性を活かし、様々な地域福祉活動を展開しています。



南支部 千駄野区いきいき交流会

いきいきサロン事業

ふれあい・いきいきサロンは、身近な地域にある集いの場です。「楽しく」「気軽に」「無理なく」をモットーに、顔を合わせることで自然と始まるおしゃべりなどから仲間とつながり、地域の助け合いが広がります。本会は、サロンの立ち上げや、活動上のサポートを行いながら住みやすい地域づくりを推進しています。



岡泉健玉クラブ

福祉活動助成事業

地域の自主的な福祉活動を活性化するため、市内に活動拠点を持つ社会福祉団体等が実施する事業に対して、助成金の交付や相談支援を行っています。

福祉教育事業

児童・生徒の社会福祉への理解と関心を高めるため、市内の小中学校及び高等学校を福祉協力校に指定し、学校や地域での各種福祉教育活動に対して補助金の交付や福祉体験等を支援しています。「ふだんのくらしのしあわせ」についてみんなで考えていきます。



車いすバスケット体験（菁莪小）

防災対策事業

大規模災害時、住民の生活の復旧・復興のため、白岡市地域防災計画に基づき災害ボランティアセンターの設置・運営や災害ボランティアの登録制度など必要な体制の整備を行っています。また、市や関係機関と連携し、迅速な対応がとれるよう防災訓練等に参加しています。



福祉避難所設営訓練

備品貸出事業

白岡市の地域福祉の増進を図るため、本会が所有する備品を最大1週間貸し出しています。



ポッチャとモルック



かんたんテント

在宅福祉活動推進事業

福祉機器貸与事業

在宅又は入所者等の一時的な帰宅の際に、ベッドの利用を必要とするかた、若しくは身体に障がい有るかた等の日常生活の便宜や、在宅での介護の支援を目的に、介護用ベッド及び車いす（長期・短期）を貸与しています。



左から介助式・子供用・自走式車いす

配食サービス事業

住民相互の見守り体制を促進するため、一定の条件の高齢者を対象とした配食事業を月に2回実施しています。配食弁当はボランティア団体「トマトの会」が調理を行い、利用者宅への配達には「配達ボランティア」が行っています。



配食弁当

障がい者移動支援事業

車いすを必要とするかたの行動範囲の拡大と社会参加の促進、介護者の負担軽減を目的に、車いすのまま乗降できる福祉車両の貸し出しを行っています。主に医療機関への通院、福祉施設への送迎、公共機関への手続き、日常生活のお買い物やお出かけ等にご利用いただけます。



福祉車両（フリード）

しらおか地域生活支えあいサービス事業

日常生活上の支援が必要な高齢者等が、住み慣れた地域で在宅生活が送れるように住民相互の支え合いにより、地域住民による簡易な家事援助サービスを提供しています。



協力会員による窓拭きの様子

法外緊急援護事業

緊急に援護を必要としているかたの応急的ニーズを満たすことを目的に、住所不定の行路人等へ旅費や食料を支給しているほか、住宅火災の被災者に対して見舞金をお渡ししています。

彩の国あんしん セーフティネット事業

制度の狭間で生活困窮等に直面しているかたに対して、会員となっている社会福祉法人が相談支援を実施し、地域のセーフティネットの役割を担うものです。利用可能な制度の紹介や支援機関への橋渡し、あるいは、現物給付を行い、生活困窮者の自立を支援しています。



事業シンボルマーク

音訳・点訳物配布事業

視覚障がい者等が情報を取得する機会を増やすため、ボランティア団体「朗読ひまわり」及び「てんとう虫」の協力により、市広報紙の音訳物や点訳物を作成し、情報提供を実施しています。



音訳物作成の様子



点字プリンターと点字一覧表

ボランティアセンター事業

ボランティアセンター運営事業

ボランティア活動の拠点として、相談対応やコーディネート、その他ボランティア保険の加入手続きなどを行っています。



ボランティアセンター

ボランティア育成事業

ボランティア育成のため、夏休みのボランティア体験や各種講座の開催、既存のボランティア活動者へのフォローアップ、団体立ち上げ時のアドバイスを行っています。また、地域の実情やニーズに合わせて養成講座を開催しています。



夏のボランティア体験プログラム
車いすバスケット体験の様子

生活困窮者自立相談支援事業

生活困窮者自立相談支援事業

生活困窮状態からの早期自立を促すために、主に経済的な不安や困りごとの相談窓口として「しらおか生活相談センター」を設置しています。専門の相談員がお話を伺って課題を整理し、解決に向けての支援を行います。



「しらおか生活相談センター」パンフレット

重層的支援体制整備事業

重層的支援体制整備事業

福祉に関するさまざまな相談ができる窓口として、白岡市福祉課と本会に「福祉の総合相談窓口」を設置しています。必要に応じて関係機関と連携し、協働で支援に臨んでいます。また、世代や属性を超えた居場所や交流の場を整備し、地域活動の活性化と参加促進に取り組んでいます。



重層的支援体制整備事業研修会

成年後見制度利用促進事業

成年後見制度利用促進事業

成年後見制度は、認知症・知的障がい・精神障がいなどにより、判断能力が十分でないかたの権利を守るための制度です。制度の利用促進に向け、関係機関と連携を図りながら、成年後見制度に関する相談や市民への周知啓発活動を行っています。



パンフレット（市役所内）

福祉サービス利用援助事業

あんしんサポートねっと（愛称）

物忘れのある高齢者や知的障がい、精神障がいのあるかたなどが安心して生活を送れるように、定期的に訪問し、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理、書類の預かりなどのお手伝いを行います。



「あんしんサポートねっと」
パンフレット

資金貸付事業

生活福祉資金貸付事業

低所得世帯や高齢者、障がい者世帯の安定した生活と経済的自立を図るため、資金の貸付と必要な相談支援を行っています。

市社協福祉資金貸付事業

臨時的出費や収入の欠如等のために生活を脅かされたり、その恐れがある低所得世帯等に対して、本会の資金により貸付を行っています。



相談室（個室）

共同募金事業

赤い羽根共同募金・ 地域歳末たすけあい募金

埼玉県共同募金会白岡市支会として、行政区や民生委員・児童委員、市内の学校、企業、関係団体等の協力のもと、地域福祉の推進のための募金運動を行っています。市内で集められた募金は埼玉県内の福祉事業と市内の福祉事業に配分され活用されます。



街頭募金の様子

訪問介護事業

訪問介護事業

自立した在宅生活を送っていただくため、ホームヘルパーが、利用者宅を訪問し、入浴、排せつ、食事の介護、その他生活全般にわたる援助を行います。



ヘルパーステーション訪問車

障害福祉サービス事業所

ありの実館・東ありの実館

在宅の心身障がい者の社会参加の促進のため、必要な訓練や授産活動の場を提供し、その福祉の促進を図ることを目的とした施設です。

- ・企業下請け作業
箱折り、米袋糊付け加工など。
- ・自主生産品製造販売
みかんせっけん、布マット、手作り和紙、自家焙煎コーヒーなど。



ありの実館自主生産品
(左から「みかんせっけん」「手作り和紙」「座◇BUTON」)



東ありの実館自主生産品
「みのりあ珈琲（粉・ドリップパック）」

法人運営事業

広報啓発企画事業

本会の活動の周知や、福祉に関する情報を提供するため、広報紙「社協だより」を年3回発行。SNSや地域イベント等で情報を発信しています。



社協だよりしらおか

会員募集事業

地域福祉活動の推進のため、その趣旨に賛同いただいたかたに加入していただき、その会費をもって本会の事業全般の財源として活用しています。

(年会費)	
一般会員	600円
特別会員	3,000円
賛助会員	5,000円

会員募集用パンフレット

福祉活動計画推進事業

住民一人一人が、互いに支え合い助け合いながら、安心した生活ができる地域社会を実現するため、行動指針となる地域福祉活動計画を策定しています。

住民のほか、ボランティア、民生委員・児童委員、社会福祉施設などの社会福祉関係者、保健、医療、教育などの関係機関と協働で計画を策定し、進行管理に取り組みます。



住民座談会の様子

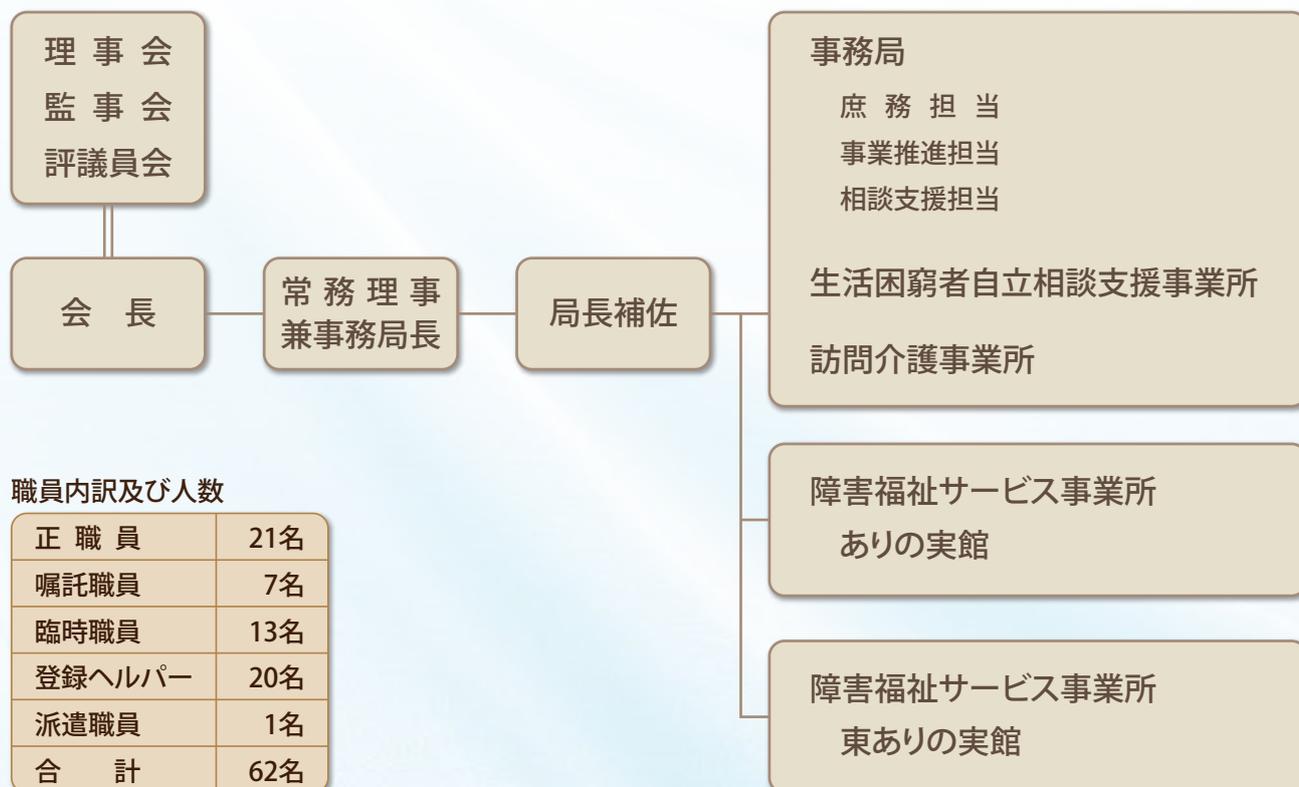
日本赤十字社会員募集事業

日本赤十字社では、皆様からの会費により、国際救護活動や国内の災害救護活動、救急法の講習などを行っています。白岡市においても、災害救護機材の配備や人道的支援を行うための募金運動に取り組んでいます。

令和6年度パンフレット

白岡市社会福祉協議会組織構成図

令和6年10月1日現在



職員内訳及び人数

正職員	21名
嘱託職員	7名
臨時職員	13名
登録ヘルパー	20名
派遣職員	1名
合計	62名



白岡市社会福祉協議会公式キャラクター「どんぐりくん」誕生秘話



左：森幸子さん 右：西脇駿さん

白岡市社会福祉協議会の公式マスコットキャラクターの「どんぐりくん」は、平成24年7月の社協だよりで公募しました。

- ・やさしい「キモチ」と元気あふれるまちのシンボル
- ・やさしさと笑顔があふれるまち
- ・みんななかよし！

この3つのイメージを共有できるマスコットキャラクターとしてイメージを森幸子さんが、名称を西脇駿さんがそれぞれ考案され、平成25年に正式に決定しました。

皆さまからの一言

Message



法人化50周年を記念して、日頃から地域福祉の推進に関わりがある50の関係者から次のテーマに係るメッセージをいただきました。

(順不同・敬称略)

- 1 法人化50周年を迎えた社協へメッセージ
- 2 これからの社協に期待すること
- 3 こんな地域（市）にしていきたい

支部社協の皆さま

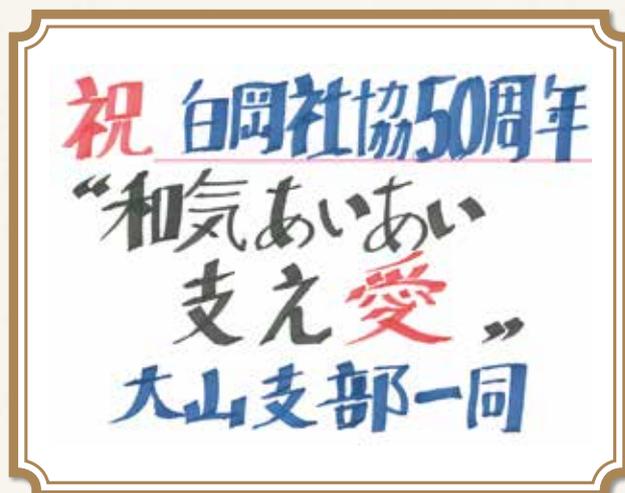
菁莪支部



篠津支部



大山支部



支部社協の皆さま

南支部



祝 50 周年
おめでとうございます
人を思いやる心と優しさで
明るい未来に向けてみんなで
頑張ります！

南支部福祉委員一同

西支部

50周年おめでとうございます

<私たちはこんな地域を目指します>

- 高齢者が楽しく過ごせる社会
- 子育てを地域で支える社会
- 福祉活動に理解のある社会

白岡市社会福祉協議会西支部



白岡東支部



50周年おめでとうございます。
引き続き、全ての人に
やさしく寄り添う白岡社協で!!

白岡東支部

ボランティアグループの皆さま

梅の実



朗読ひまわり



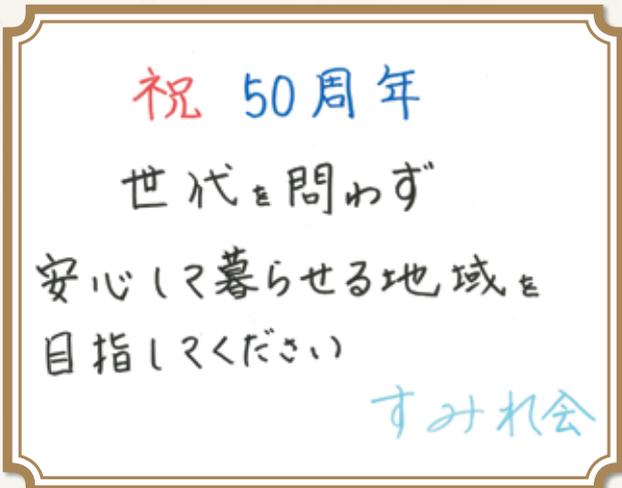
おはなしのたね「もこもこ」



子どもと本を読む あゆみ会



すみれ会

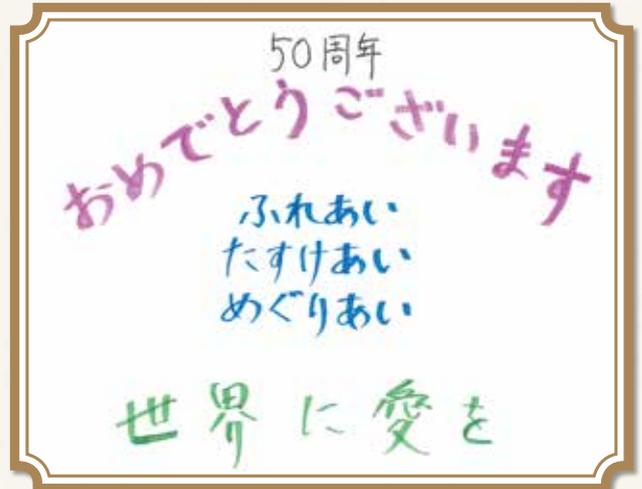


てんとう虫



ボランティアグループの皆さま

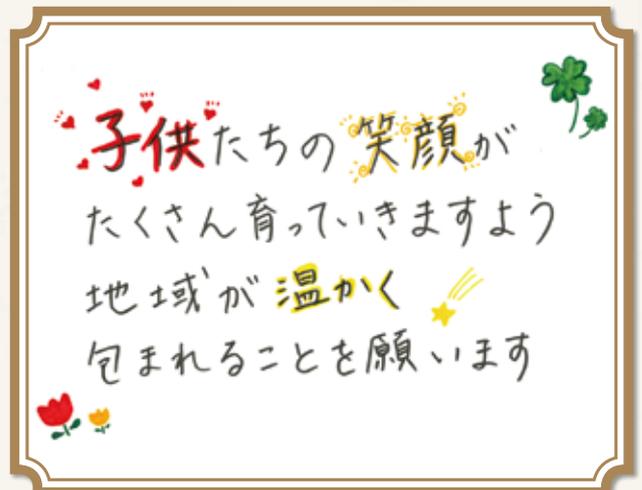
人形劇サークルあい



手話サークルありの実会



リサイクルの会



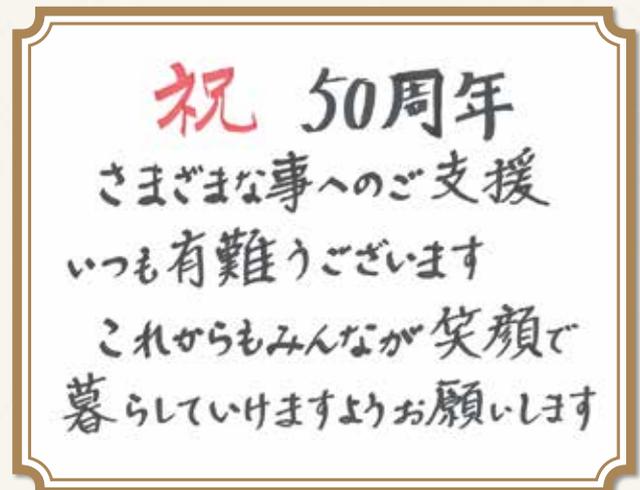
きずなの会



医療生協さいたま白岡支部

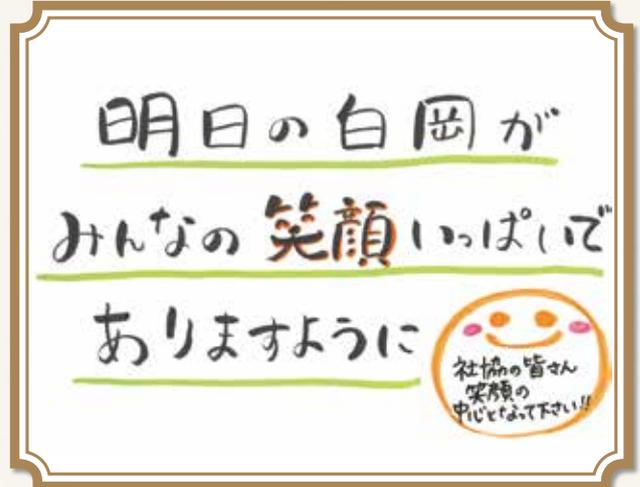


友愛通信そよかせ

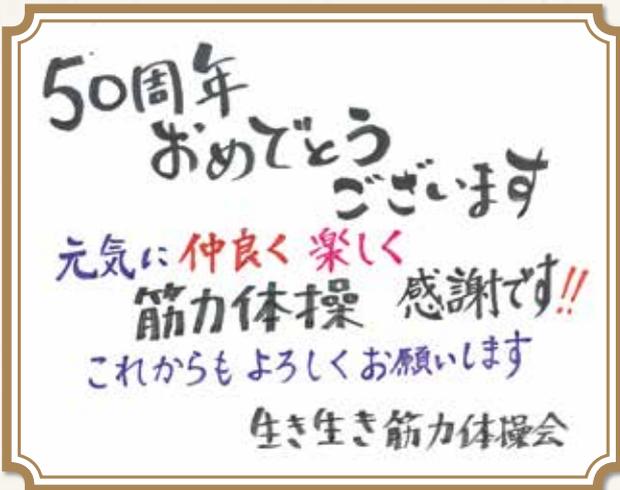


ボランティアグループの皆さま

高岩囃子連



生き生き筋力体操会



ボランティアグループつくし手作りサークル



ミモザ・ヨガの会



白岡市社会福祉協議会
 50周年
 おめでとうございます。
 骨^コ々^コア^アア^アーで
 元気な100歳を目指して!!
 ミモザヨガの会

クルボー



新白岡エリアマネジメント



50Th Congratulations!
 新白岡エリアを中心に
 『新白岡に住まい、働き、楽しみながら過ごす街』
 そんなステキな街を目指して活動をしています。
 新白岡エリアマネジメント
 SHINOH RAOKA AREA MANAGEMENT

登録サロンの皆さま

バルーン友の会



祝50周年
心・身体・脳
ず〜と現役
健だまバルーン友の会

しのぶおしゃべり会

祝法人化50周年
体そうとおしゃべり
すこやかに!!



りとるかずのコ。



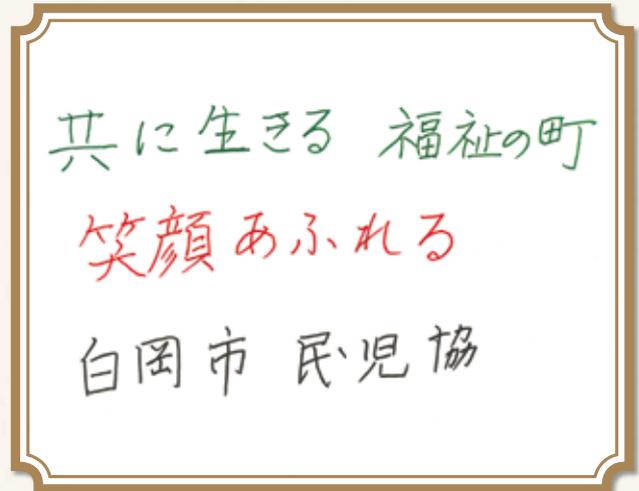
50周年おめでとうございます
地域みんなで子育てを!
社協の手助けがあって
私達も11年続けられています

関係団体の皆さま

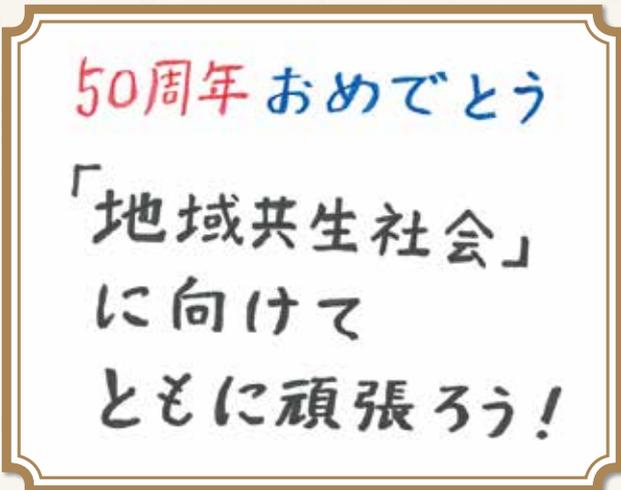
白岡市行政区長会 副会長 井上 聡・増田政史



白岡市民生委員・児童委員協議会



白岡市老人クラブ連合会



社協事業に携わる皆さま

訪問介護事業
登録ヘルパー



ボランティアセンター運営事業
白岡市ボランティア連絡会 前会長 浅野悦子



しらおか地域生活支えあいサービス事業
協力会員 水野 豊・平野直美



配食サービス事業
ボランティアグループ トマトの会 (左側:A班 右側:B班)



50周年おめでとうございます
高齢者のお弁当に家庭の味を
出来たてのおかずで彩りよく
目で楽しみ食べて元気
に トマトの会一同

協力機関・OBの皆さま

白岡市 健康福祉部 福祉課



地域包括支援センター
ウエルシアハウス・ほっかほか



埼玉葛北地区基幹相談支援センター「トロンコ」
埼玉葛北地区地域生活支援拠点「オリーブ」



白岡市商工会
会長 弓木裕一

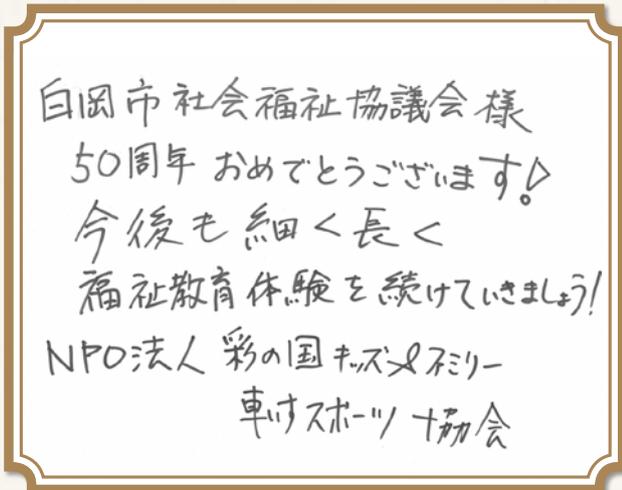


協力機関・OBの皆さま

しらおか子育て応援ラボ



NPO 法人 彩の国キッズ&ファミリー 車いすスポーツ協会



埼玉県立白岡高等学校 生徒会



白岡市 PTA 連絡協議会



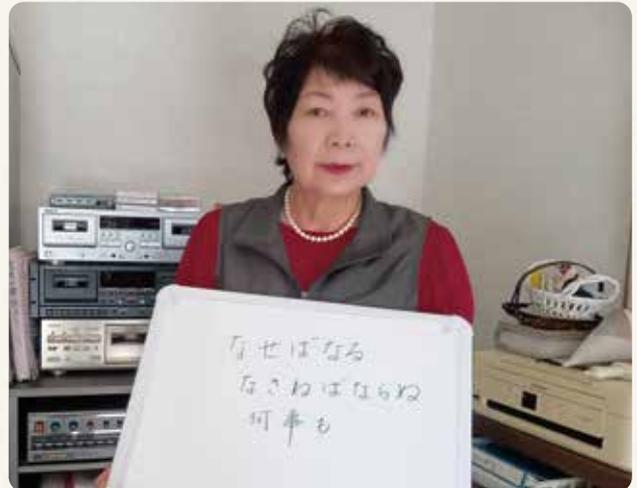
株式会社シティープラン



日産化学株式会社 生物科学研究所



関山千代子歌謡教室



白岡市社会福祉協議会
元会長 小島 卓



白岡市社会福祉協議会
元事務局長 大橋直巳



皆さまからの心温まるメッセージに深く感謝申し上げます。

白岡市社会福祉協議会歴代会長・理事一覧

改選年	会長	副会長	理事						監事
1975年 (昭和50年)	荒井 宏	小島清三郎	浅川金次郎	浅草 守	荒井 潤	石田ひさよ	大久保 薫	鬼久保郁雄	野口順之助
		渡辺誠一郎	黒須勝太郎	清水 菊枝	竹内欽之丞	野本 はつ	本沢 正義	山崎 もと	江原 金蔵
1977年 (昭和52年)	荒井 宏	齊藤長次郎	浅川金次郎	浅草 守	弓木 正男	石田ひさよ	大久保 薫	鬼久保郁雄	野口順之助
		松村 茂	斎藤 昇	清水 菊枝	竹内欽之丞	野本 はつ	本沢 正義	関根富美子	大橋 平作
1979年 (昭和54年)	荒井 宏	齊藤長次郎	浅川金次郎	浅草 守	弓木 正男	石田ひさよ	大久保 薫	鬼久保郁雄	野口順之助
		斎藤 昇	清水 菊枝	細井 啓司	松村 茂	本沢 正義	関根富美子	大橋 平作	
1981年 (昭和56年)	荒井 宏	齊藤長次郎	浅川金次郎	浅草 守	弓木 正男	石田ひさよ	大久保 薫	鬼久保郁雄	野口順之助
		山崎友次郎	斎藤 昇	清水 菊枝	細井 啓司	松村 茂	大橋 直巳	関根富美子	大橋 平作
			吉田 秋野						
1983年 (昭和58年)	荒井 宏	齊藤長次郎	浅川金次郎	浅草 守	弓木 正男	石田ひさよ	大久保 薫	斎藤 昇	野口順之助
		山崎友次郎	吉田 秋野	高橋 通雄	細井 啓司	吉川秋太郎	松村 茂	本沢 正義	大橋 平作
			関根富美子						
1985年 (昭和60年)	荒井 宏	蛭間 精一	浅川金次郎	浅草 守	弓木 正男	細井 要蔵	石井 良助	沼沢 ちよ	野口順之助
		松原 英一	吉田 秋野	高橋 通雄	田母神節子	竹内 敏子	本沢 正義	石井多美子	大橋 平作
1987年 (昭和62年)	荒井 宏	蛭間 精一	浅川金次郎	武井 重信	弓木 正男	齊藤長次郎	松村 茂	石井 良助	野口順之助
		折原 新作	沼沢 ちよ	吉田 秋野	高橋 通雄	田母神節子	折原 とよ	森田 富雄	大橋 平作
			石井多美子						
1989年 (平成元年)	荒井 宏	蛭間 精一	浅川金次郎	大久保松彦	弓木 正男	中島 孝	江原 源蔵	秋葉 正吉	野口順之助
		江原 源蔵	小野田昌一	利根川武夫	松村 茂	田母神節子	山田 豊吉	森田 富雄	大橋 平作
		江原 邦男	飛高 善吉						
1991年 (平成3年)	荒井 宏	江原 源蔵	浅川金次郎	高澤 和夫	岡安 章	中島 孝	藤井 隆司	古武三千雄	野口順之助
		松原 登	利根川武夫	松村 茂	田母神節子	山田 豊吉	森田 富雄	大橋 直巳	石井 良助
			飛高 善吉						
1993年 (平成5年)	荒井 宏	江原 源蔵	浅川金次郎	高澤 和夫	岡安 章	中島 孝	松原 登	古武三千雄	野口順之助
		戸張 徳次	興 淳明	折原 武夫	松村 茂	田母神節子	山田 豊吉	榎本 文男	石井 良助
		飛高 善吉							
1995年 (平成7年)	荒井 宏	戸張 徳次	榎本 文男	興 淳明	高澤 和夫	黒須 敏夫	田母神節子	中島 孝	石井 良助
		江原 源蔵	山田 豊吉	米山 弘之	鬼久保好男	宮脇 昇	斎藤 哉助	岡安 好行	大橋 東司
		井上 佐一	井上 昭助	黒田 藤吉					
1997年 (平成9年)	濱田 福司 ※平成8年12月就任	米山 弘之	榎本 文男	興 淳明	岡安 正治	黒須 敏夫	田母神節子	黒田 藤吉	石井 良助
		井上 佐一	井上 昭助	戸張 徳次	鬼久保好男	宮脇 昇	斎藤 哉助	岡安 好行	大橋 東司
			大久保米吉	安野 利栄	安斎 富雄	島村 健			藤井 隆司

改選年	会長	副会長	理事							監事
1999年 (平成11年)	濱田 福司	米山 弘之	細井 淑子	興 淳明	岡安 正治	島村 健	田母神節子	黒田 藤吉	大橋 東司	
		井上 佐一	井上 昭助	戸張 徳次	鬼久保好男	宮脇 昇	斎藤 哉助	安野 利栄	藤井 隆司	
			黒田 進治	山口 徳治	吉住 惣一	森木 清次				
2001年 (平成13年)	濱田 福司	米山 弘之	細井 淑子	興 淳明	岡安 正治	島村 健	田母神節子	黒田 藤吉	大橋 東司	
		井上 佐一	井上 昭助	森木 清次	黒田 進治	宮脇 昇	山口 徳治	吉住 惣一	藤井 隆司	
			加藤 富雄	盛合 兵三	山崎 保	大倉 秀夫	斎藤 清	関口 勉		
2003年 (平成15年)	山崎 保 ※平成14年2月就任	大橋 元茂	折原 實	木村 雅明	岡安 正治	島村 健	田母神節子	黒田 藤吉	大橋 直巳	
		大倉 秀夫	関口 勉	森木 清次	米山 弘之	宮脇 昇	関山 功一	佐々木 操	藤井 隆司	
			加藤 富雄	大島 進	細井 俊雄				山口 昭司	
2005年 (平成17年)	山崎 保	大橋 元茂	岡安 良	木村 雅明	岡安 正治	細井 俊雄	田母神節子	黒田 藤吉	大橋 直巳	
		大倉 秀夫	石渡 光一	森木 清次	米山 弘之	宮脇 昇	関山 功一	佐々木 操	山口 昭司	
			井上 きみ	小野田憲司	福原 良男	田崎 保吉	安野 利栄			
2007年 (平成19年)	山崎 保	大橋 元茂	宮下 康夫	高木 隆三	福原 良男	安野 利栄	田母神節子	田崎 保吉	大橋 直巳	
		折原 茂幸	石渡 光一	森木 清次	米山 弘之	宮脇 昇	関山 功一	佐々木 操	山口 昭司	
			船山 昌尚	井上 きみ	江原 清士	奈良 初枝	安野 富夫			
2009年 (平成21年)	小島 卓	船山 昌尚	宮下 康夫	関根 頌二	福原 良男	安野 利栄	田母神節子	田崎 保吉	山口 昭司	
		折原 茂幸	常見 義旭	森木 清次	米山 弘之	奈良 初枝	関山 功一	佐々木 操	菅原 清孝	
			山崎 紀男	安野 富夫	高木 隆三					
2011年 (平成23年)	秋葉清一郎	山崎 紀男	高木 隆三	福原 良男	浅野 悦子	米山 弘之	森木 清次	佐々木 操	山口 昭司	
		折原 茂幸	安野 富夫						菅原 清孝	
2013年 (平成25年)	秋葉清一郎	柳 祐作	高木 隆三	福原 良男	浅野 悦子	野内 誠	奈良 初枝	田端 勇治	山口 昭司	
		折原 茂幸	安野 富夫						菅原 清孝	
2015年 (平成27年)	秋葉清一郎	柳 祐作	藤井栄一郎	長島 秀夫	浅野 悦子	吉田 英雄	長島 一夫	佐々木 操	山口 昭司	
		折原 茂幸	井上 きみ						菅原 清孝	
		市村 春樹								
2017年 (平成29年)	秋葉清一郎	佐々木 操	浅野 悦子	大門 守夫	井上 良男	田端 勇治	井上 きみ	宮下 康夫	中村 輝久	
		矢島 静江	鈴木 幸雄						山口 昭司	
2019年 (令和元年)	秋葉清一郎	佐々木 操	浅野 悦子	吉田 英雄	長島 一夫	岡安 重夫	井上 きみ	鈴木 幸雄	中村 輝久	
		矢島 静江	山岸 良一						都野 義夫	
2021年 (令和3年)	野口 仁史	佐々木 操	浅野 悦子	前島 雅史	井上 良男	田端 勇治	井上 きみ	八木橋昌美	都野 義夫	
		矢島 静江							長島 清一	
2023年 (令和5年)	野口 仁史	佐々木 操	浅野 悦子	大森 孝	長島 一夫	江原 浩次	五十嵐泰子	神田 信行	都野 義夫	
		矢島 静江							長島 清一	

あ と が き

本会が最初に記念誌を発行したのは、法人化20周年を迎えた平成6年度のことでした。それから30年が経過し、法人化50周年の節目のときを迎え、改めて記念誌を編集・発行することにしました。編集にあたっては、法人化20周年で発行した記念誌を頼りに始めましたが、当時を知る職員も少なくなり、手探りの中、文献や写真などの資料集めから始まりました。この編集に携わった20代、30代の若手職員にとっては、生まれる前の時代背景や事業に触れ、思いを巡らすことで、先輩諸賢が築き上げてきた白岡市の地域福祉を過去から現在に、そして未来へつなげることができる良い機会になったと思います。

今回の記念誌では、法人化50周年にちなんで50の関係者から本会に対して祝辞や応援のメッセージなどを頂戴いただきましたが、ページの都合上、掲載することができなかった関係者がたくさんいらっしゃいました。改めて、多くの方に支えられ、ともに手を携えてきたことを実感しました。今後も、白岡市社会福祉協議会は、関係者をつなぎ、連携、協働の場であるプラットフォームとしての役割を担うなど、地域福祉の中核組織として励んでまいります。

最後に、この記念誌に関わったすべての皆様に対しまして、心から感謝を申し上げますとともに、引き続き本会への御理解、御協力をお願い申し上げます。結びの言葉といたします。

社会福祉法人 白岡市社会福祉協議会

地域と共に50年 これまでも これからも



職員一同

発行日 2025年(令和7年)2月
編集・発行 社会福祉法人 白岡市社会福祉協議会
〒349-0215 埼玉県白岡市千駄野445
TEL 0480-92-1746 FAX 0480-92-1581
URL: <https://shiraoka-shakyo.org/>
印刷所 有限会社 イノウエ印刷
〒346-0005 埼玉県久喜市本町2-2-21
TEL 0480-21-2925





社会福祉法人
白岡市社会福祉協議会